

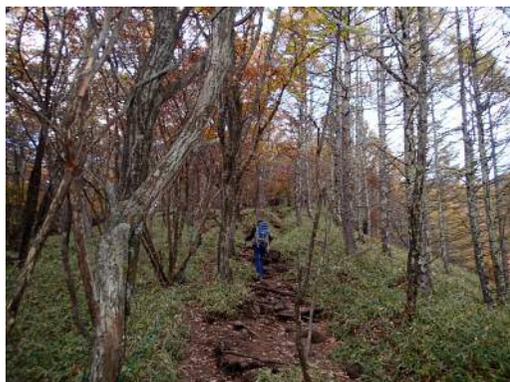
編笠山から権現岳

秋の八ヶ岳を歩く

2019年11月3日（日）曇り後晴れ

L：やまたくお・510・ハンブルクの星・カワセミ・磯部 N

唐松林の紅葉と展望を楽しみに、観音平を午前6時に出発する。まだ、薄ボンヤリとした林の中の気持ちの良い道をゆっくりと高度を稼いでいく。



朝の雑木林

雲海展望台で、右後ろを振り返れば、澄んだ空気の中に富士山がくっきりと浮かんでいた。



朝靄の向こうに富士山が・・・

高度を上げるに従って、ごろ石が増えてきた。

押出川で、右に青年小屋への道を分け、私達は真っ直ぐに進んで編笠山をめざす。



押出川の分岐

分岐を過ぎると道はますます、険しくなった。段差も大きくなって、ハシゴも出てきた。



雪を被った南アルプス

9時に、山頂に着いた。

さすがに寒いですが、風はさほど無く、岩だらけの山頂で、展望を楽しむ。



編笠山



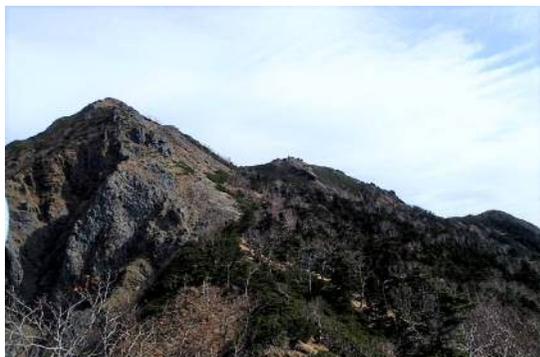
阿弥陀岳・赤岳・権現岳

編笠山を一旦下って、青年小屋を過ぎ、権現岳に向かう。

ノロシバで右に折れると、左が切れ落ちた崖になり、その縁を進む。見ていると恐ろしいが、道幅があるので難なく通過。

以降、急登と鎖場の連続するギボシのトラバース道を経て、岩稜の尾根にたどり着いた。

ここまで来ると、権現は近い。



庄巻のギボシへの登山道

小屋じまいの準備を終えた権現小屋の脇を抜け、赤岳方面への道をわけて11時30分、権現岳に着いた。



ヤッホー



編笠山

砂礫地とハイマツ帯、ちょっとした鎖場を経て、少し登り返すと三ツ頭に着いた。

ここからの、展望もすばらしい。

三ツ頭の少し先で、道は天女山方面と甲斐小泉駅へ向かうアトノ尾根とに分かれる。天女山へ下る人が多いが、私たちは、アトノ尾根道を進む。

道は徐々に下っていく。

全般的に、急下降はなく、ゆるやかな下り道だ。

八ヶ岳神社へ下る道を右に折れ、しばらく進むと河原へつながる長い階段が始まる。

河原へ出たら対岸に渡り、笹原を15分ほど登って観音平駐車場に着いた。

磯部 N 記



ササスベリ付近

下るにしたがって、雑木も増えてきて、きれいな紅葉に歓声上がる。



もみじの紅葉